

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.646

2016. 9・10 Sep・Oct

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/井上 真二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

「平和な人には未来がある」
(詩篇37編37節)

国際・奉仕センターの 変遷と現在の活動



多文化共生セミナー

神戸YMCAは、国際都市神戸にあるYMCAとして、広く市民との共同の中で国際的活動を展開してきました。1886年神戸YMCA設立当時、神戸英語学会を発足させましたが、それにはアメリカン・ボード(英語: American Board of Commissioners for Foreign Mission 北米最初の海外伝道組織)が関わり、神戸に数多くある教会との関係の中で神戸YMCAが育ってきたことも影響しています。

現在ある多様な国際活動の多くは戦後にその種がありました。米国シアトルYMCAとの関係は、神戸市とシアトル市が姉妹都市締結を行ったことがきっかけで交流が始まったと伝えられています。1966年にシアトルYMCAから最初の高校生を迎えました。その後今日までユース世代の交流と異文化理解に始まり、スタッフ・レイパーソンの交流、学びへと広がりました。

1960年代後半は、日本のYMCAではアジア・太平洋地域に関心が向けられた国際協力・奉仕事業活動が始まった時期でもあります。現在もその当時に始められた国際協力募金を継続しています。その後地域レベルでの国際理解教育・国際交流活動に取り組み、1980年に神戸YMCAクロスカルチュラルセンターを、1986年に国際文化センターを開設しました。1990年代バブル崩壊など世界情勢が大きく変化していきましたが、国際協力募金活動や留学生及び在住外国人に対する支援協力は、他の関係諸機関との連携により、ますますつながりを強めていきました。



ボランティアによる街頭募金

2001年からは神戸YMCA国際・奉仕センターとして、主に国際理解・協力・交流活動と地域奉仕(社会貢献)活動を行っています。具体的には「多文化共生セミナー」「難民ワークショップ」「グローバル教育研修」など各種国際平和理解セミナーやスタディツアー、パートナーYMCAとのエクスチェンジプログラムの実施、災害救援のコーディネーション他、社会的な課題に取り組んでいます。

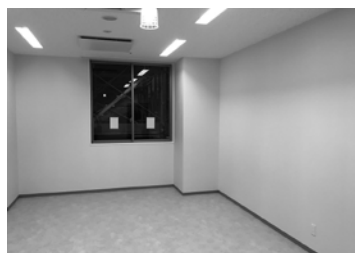
一人ひとりの個が大切にされ育まれる環境を創り、それぞれ異なる個の共存・共生を求める私たちの使命を具現化するYMCAの活動は、その時代、その地域などそれぞれのニーズに応じて展開されていきました。時代によって、地域によって変化してきましたが、目的は常に変わらず、キリスト教価値観を持ち平和を創りあげる社会を築くことです。



熊本地震 瓦礫撤去ボランティア支援

新会館 工事進捗状況

きびしい暑さが続く中、新会館建設工事は順調に進められています。工事は9F部分の高さまですすめられ、その大きさがよくわかるようになってきました。YMCA部分では、徐々に内装工事に向けての準備がすすみ、2Fの一つの教室を、ほぼ完成状態に仕上げられています。



新会館教室

「生活科学運営」との 共催セミナーが開催されました!



生活科学との講演会

新「神戸YMCA三宮会館」の協働事業者である「生活科学運営」と、神戸YMCAの共催によるセミナーとシンポジウムが、7月11日に開催されました。

第1部で、『プロが語る高齢期の住み替え、成功と失敗事例』と題して、エイジングデザイン研究所の山中由美氏による自分にあった住まい選びの成功の鍵についてセミナーが開催されました。

山中氏は高齢者住宅約700ヶ所を視察して来られた豊富な経験から多種多様な住宅タイプがある高齢者住宅の特徴について、ポイントを押さえた分かりやすい事例を用いてお話しください、誰もが知りたいことに答えるセミナーとなりました。第2部では、『神戸YMCAと生活科学運営が始める有料老人ホームとは?』と題して、神戸YMCA、生活科学運営、山中氏によるシンポジウムが開かれました。

創立130周年を迎える神戸YMCAとして、新三宮会館でも『すべてのいのちが光り輝く』ことを願い、それを具現化する為に協働できる事業者を求める中で生活科学運営と思いがひとつになったことが語られました。

生活科学運営も『地域コミュニティの創造』を第一に活動してきた歴史の中で、兵庫県初のチャレンジであること、YMCAとの協働の中で、ファミリーウエルネスセンター利用による介護予防の促進や日本語学校との連携、ボランティア機会の創出など他のホームではできない取り組みに期待をしていることが語られました。

この取り組みによって、単なる空間を共有するだけではなく、地域への発信拠点を神戸YMCAと生活科学運営が協働で作上げていくこと、会館内での学生、入居者のボランティア機会の協働が拡がり、何より新三宮会館が地域の方々にとっても必要不可欠な公益性の高い場になるよう、時間をかけながら、一緒に作り上げていくことを確認いたしました。

YMCAとしては、あらたなmembership by designの取り組みと考えています。

今回のセミナーについて、以下の日程で次のセミナーを予定しています。

9月20日(火) 13:30~14:40

<健康寿命が大切、押さえておきたい「高齢期の住み替え」基礎知識>

10月24日(月) 13:30~14:40

「命と資産を預ける高齢者の住まい、品質と経営、ここをチェック!」

会場: いずれもグリーヒルホテル神戸1階 参加費無料、要事前予約
予約先電話番号 0120-784-177

神戸YMCA 名誉会員の方々が推挙されました。

神戸キリスト教青年会会則に基づいて以下6名の方々が名誉会員とされました。

村山盛嗣さん、大塚章信さん、大塚敏子さん、橋本正晴さん、橋本和子さん、京極美栄子さん

名誉会員となるにはさまざまな条件がありますが、維持会員としてYMCAを長きにわたりお支えいただいている方、そして年齢も考慮して常議員会で推挙されるものです。

何よりも、ほぼ半世紀にわたり維持会員として名実共に活動、奉仕されてこられた方々で、私たちの偉大な先輩として誇りとすると所です。今後ともお元気で活躍されますように心よりお祈りします。

第19回 神戸YMCA インターナショナル・チャリティーラン2016

—「あなたが走るとハッピーになる子どもたちが増えます。」—

神戸YMCAチャリティーランは、今年で19回目を迎えます。多くの参加者やボランティア、協賛企業の方々に支えられています。

ここで集まった支援金で、「障がいのある子どもたちが、YMCAの夏のキャンプに参加できるように!」との願いから、1983年に東京で始められました。

ぜひ、みんなの力を!!ご参加ください。



日 時: 2016年11月3日(木・祝)
会 場: しあわせの村(運動広場およびジョギングコース)
種 目: 小学生駅伝(4、5、6年生、1チーム4名、4.9km)
1/10マラソン(中学生以上、個人タイムレース)
グループラン(原則5名以内のグループでチーム編成、2.0km)
1/100マラソン(記録会)

♪♪♪ いっしょに歌おう ♪♪♪

～ 幼稚園 ～

6月14日(火)に、神戸聖ミカエル大聖堂にて、日本聖公会神戸教区宣教140周年「こどものための記念コンサート」が行われ、YMCAの幼稚園・認定こども園の年長組もお招きいただき楽しいひと時を過ごすことが出来ました。ゴスペルユニットのMAKI&LILYのお2人によるピアノと讚美は、自然と子どもたちの心も身体も動かし、楽しそうに歌う子どもたちの姿は大人の私たちをも感動させる素晴らしい、美しい光景でした。



讚美の声。音楽の力。・・・に魅せられた子どもたちは、幼稚園でも力強く歌っています。歌声は幼稚園全体に広がり、一緒に歌おう♪と、いつしか年少組・年中組のお部屋からも♪ハ～レ～ル～ヤ～ じゅうじかを見あげ～♪とかわいい讚美の声が聴かれるようになりました。

音に心を突き動かされ、思わず立ち上がり、手拍子を打ち、振りをつけて歌う子どもたちとともに神様を見上げて過ごす幸せを感じています。

「キャンプで子どもと家族の自立の心を!!」

～ 保育園 ～



西区にある幼保連携型認定こども園 YMCA保育園 神戸学園都市YMCAこども園 西神戸YMCA保育園の年長のこども達57名と教職員10名で、今年も小豆島のYMCA余島野外活動センターで2泊3日のキャンプを実施しました。

キャンプの準備から、各家庭では、いろんな準備をしていただきました。必要なものだけでなく、初めて子どもと離れる家庭では、不安と緊張の心をととのえる準備があります。

夏らしい晴天に恵まれた小豆島余島は、子ども達を包み込み、1日目の夜は、「ママにあいたいよ」と泣く男の子も、2日目の朝には大丈夫!「淋しいな!大丈夫やで」と頭を撫でて、泣いている子を慰める女の子もおりました。

2泊3日のこども達は、自分で食事も寝る準備もして過ごし、友達と一緒に遊び回り、心も体も一生懸命使いきる3日間でした。

親の存在の尊さや有難さ、子どもの存在の尊さを子どもと家族で感じた3日間であろうとおもいます。こうして、子ども達は、自立していく一歩を歩んでいきます。

コミュニティサービスセンター

<神戸市立東灘体育館>



東灘体育館は、神戸YMCA・神戸市スポーツ教育協会・アシックスジャパン株式会社の三社共同で運営している指定管理施設の一つです。

阪神「青木」駅から徒歩約7分、バスケットボールコート1面サイズの競技場と、卓球台が8台置ける体育室、トレーニング室を有する

地域の体育館です。

周辺の公共体育施設は数も限られているため、体育館種目スポーツを楽しむ地域住民にとっては欠かせない存在です。昭和50年の開設当時から利用されている卓球チームや、家族単位のバドミントンチームまで、多種多様な世代と種目の利用があり、その数は年間約8万人を超えます。

このような歴史ある体育館を、神戸YMCAは共同事業者とともに、安心安全で快適な施設運営を心がけています。この夏の高校総体開会式の選手宣誓でとりあげられた「する、みる、ささえる」というスポーツの視点から、多面的な事業を地域と共に展開しています。

現場では指定管理施設をYMCAが運営する役割と使命を日々問い続け、一歩ずつ歩んできた運営がすでに15年近く経ちました。今後も変化する行政制度、社会情勢に対応しながら、地域から「YMCAさんに担っていただきたい」と思われ続ける存在でありたいと考えています。

「夏休みの過ごし方」

～ 学童保育 ～

学童保育も夏休みに入りました。普段は、家庭から小学校、放課後に学童保育、そしてまた家庭へ戻る。家庭と小学校と学童保育が子どもたちの居場所となるのですが、夏休みは家庭と学童保育がメインとなります。必然と長い時間過ごす学童保育での生活は、子どもたちにとっても大きな影響があり、どのように夏を過ごすかは、リーダーたちの中でもしっかりと



ミーティングをして考えます。学年に応じた工作のテーマを考え、一夏をかけて自分たちでその時間を見つけながら仕上げていったり、クッキングのメニューを学年ごとに設定し、みそ汁やカレー、そぼろ丼、ハンバーガーなど材料切りから子どもたちがメインで料理を作ります。出来、不出来がねらいではなく、子どもたちが主体的にその課題やプログラムにどう関わるか?が大切なねらいです。主体的な関わりや思いには必然とその責任が子どもたち自身に付いてきます。逆に受動的な関わりは、嫌な時や失敗した時に人のせいになります。長い時間を過ごす夏休みの学童保育が子どもたちにとって主体的に関われる時であることを願っています。

個人消息

〈新入職員〉
西宮つとがわYMCA保育園
長谷川 絵理 さん(7月1日)
.....
〈退職者〉
西宮つとがわYMCA保育園
渡辺 唯露 さん(6月30日)



感謝・寄付

【熊本地震緊急支援募金感謝】

神戸YMCAでは日本のYMCAと協力し、熊本地震緊急支援として募金の呼びかけを行いました。神戸YMCAに皆様から寄せられた募金2,100,691円(4月16日~6月30日)です。皆様に心から感謝申し上げます。日本YMCA同盟では第2期熊本地震支援募金(7月1日~2017年4月30日)を行っています。引き続き皆様の尊いご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新会館建築募金

(前号掲載以降~7/31現在)

感謝をもってご報告します。(敬称略、順不同)

森 章一・愛子、尾上 尚司、宗行 孝之介、小野 勲紘、田中 宏明、株式会社フロンティアプラス 白井陽子、熊谷 郁子、石田 由美子、澁谷 寧伸、本城 智子、中嶋 甫、今西 時子、佐野 信三、神戸キリスト教書店 藤本新作、橋本 かおり、鵜田 将雄、松田 博志、原 寛、中田 杉子、坂西 卓郎、中内 安子

「ブランディング」への取り組み No.1

日本YMCA同盟中期計画にて、「新しい時代に対応したYMCAのありようとは」、「いま果たすべき社会的使命とは」、「次世代に引き継ぐためになすべきことは何か」ということを改めて見つめなおし、日本YMCA総体、「オールジャパンYMCA」の革新が重要であるとされました。

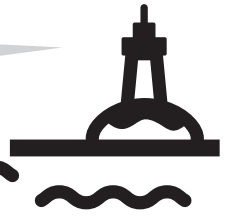
そしてYMCAの宝を再生させるべく、YMCAが持っている宝(ブランド)とその意義(ミッション)をもう一度捉え直し、それをYMCA内部の人びと、YMCA外部の人びとに共感できるものとして表現することが大切であると確認されました。そのため、YMCAの宝を再確認(リブランディング)するために、全国YMCAブランディング広報戦略タスクチームが結成されました。グラムコ(北米Yのブランディングをした企業)の協力のもと、インターネットアンケートでは1万人以上の声を聴き、その結果については、ブランディングワークショップを開催し、これから継承していくもの、強めていくもの新たに取り入れるもの、削除するものについて協議・検討をかさね、さらにそれを深め、顧客志向で言葉を選び抜き、選ばれるYMCAの土台となるブランディングコンセプトを決定しました。そして、2016年6月19日の同盟協議会において、以下のように発表いたしました。

<ブランドコンセプト>
日本YMCAは、
ブランドバリュー…したい何かがみつき、誰かとつながる、私ができる、かけがえのない場所。を提供し、
ブランドビジョン…互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。ことを目標とする、
ブランドパーソナリティ…オープンマインドで、いつも前向き、まわりを惹きつける魅力をもつ。ブランドです。

全国タスクチームを中心に進めてきたYMCAブランディングコンセプトを、今後は神戸YMCAのスタッフ、レイマン、ボランティアが理解するチームに入っていきます。中日本YMCAにおいては、8月6日に中日本YMCAブランディング発表会が行われ、それをうけて、神戸YMCAでの取り組みがはじまります。

灯台 No.8

Light House



総主事 井上真二

「ネガティブ・ケーパビリティ(negative capability)」

阿部志郎先生の著書「愛し愛されて」を読んで心に響いた言葉を紹介させていただきます。阿部先生は横須賀、田浦の基督教社会館で50年館長を勤め、戦後の乳幼児と老人の福祉や医療問題を社会に提起し、日本初の取り組みに大きな成果を上げられた方です。この度、90歳を迎えられたのを記念して出版された生涯記録の中で次のように書かれています。

「自分の人生を振り返り、人生にはほしいものはと考えますと、ネガティブ・ケーパビリティが浮かんできました。ネガティブは否定で『消極』、ケーパビリティは『能力』で、日本語では『消極的な受容力』とか、『否定的な能力』と訳しています。18世紀のイギリスの詩人ジョン・キーツが、不確実なものや未解決なものを受け入れる能力ということばで使ったのです。つまり、私どもは人生を過ごしていて、目の前は不確実で不透明です。わからないことだらけで、何をしたいのかわからなくなります。どう理解しているのかもわかりませんので不安ですし、苦しくつらくなったりするのです。(中略) そういうわからないとか、すぐ解決できないということの方が世の中には多いので、手軽な解決を求めたりするのですが、性急な解決には走らないで耐えることをネガティブ・ケーパビリティというのです。」

この著書を通し、200年も前に使われたこの言葉に出会いました。曖昧さや不確実性を受け止める力は決して消極的なものではなく、その現実を踏みとどまって真正面から静かに向き合う強さでもあると思います。いつしか希望の光が差し込み前進していく力が与えられることを「導き」と呼ぶのかもしれませんが。いかなる時も神様と共に在る事を信じ、勇気と希望を心に歩き続けたいと思います。

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(ローマの信徒への手紙 第5章3節b~4節)

熊本震災支援活動

熊本地震発生以来、神戸YMCAでは日本YMCA同盟、被災地の熊本YMCAと連携しながら、7月末現在、スタッフ・保育士含め総勢17名の派遣を行ってきました。

また、同時にユースによるワークキャンプを3回実施してきました。ワークキャンプには、ワイズメンズクラブ国際協会六甲部、また神戸大学YMCA他からの支援をいただきながら、引続き、震災支援活動を継続しています。皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。

先日、7月19日までワークキャンプに参加したユースリーダーによる阿蘇の現状報告と、今後の支援のあり方についてディスカッションの機会がもたれました。熊本の保育園での子どもたちとの関わり、また報道も少ない南阿蘇の現状を、それぞれのユース自身が体験し、自分の目で見て、感じたことが語られました。ディスカッションでは長引く被災地支援のあり方、阪神大震災を経験した人、東日本大震災の支援に加わった人、今回の熊本地震に関わった人と立場は様々でしたが、被災者に寄り添うこと、被災地のことを中心に考えた上で、何が必要であるか、何をなすべきかを語りあいました。今後も継続的な支援が必要ですし、被災者でありながら支援者である熊本YMCAの支援にも継続的に取り組んでいくことを考えていきます。これからも皆さまの尊いご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本YMCA同盟熊本地震支援募金、第2期募金期間(2016/07/01~2017/04/30)
詳しくは以下をご確認ください。 <https://srv.asp-bridge.net/ymca/index/>



シアトルに来て5日目からホームステイです。ホストファミリーです。すっかり家族の一員として受け入れられ、ホームステイ中に一人ひとりが何かに挑戦したからこそ日に日に自信に満ちた表情へと変化していきました。最後のさよならパーティーではホストファミリーに素直な気持ちを伝えることができ私たちがとってとても感動的な時となりました。中高生の時に海外に行く機会を与えられ、様々な「ちがいが」を受け入れることができたこれらの経験がこれからも広がっていくことを期待しています。最後に、このプログラムを実施するにあたってたくさんの方々からサポートをいただき心より感謝いたします。ありがとうございました。

シアトルの明るく楽しい雰囲気にはメンバーもいつの間にか心を開き交流することができました。メンバーが滞在中に楽しんでいたのはキャンプとホームステイです。CAMP SEYMOURでは、クライミングウォールやジャイアントジエンガなどのアクティビティにチャレンジする場面がたくさんありました。その度、キャンプリージャーからは「Challenge by Choice」と言われ自らチャレンジすることを選択するよう促されました。今までできなかったことにチャレンジすることはとても勇気のいることです。だからこそ、挑戦する仲間を励まし、結果よりも挑戦したことを一緒に喜び合ったことでグループの仲が深まってきました。



「神戸YMCA ユース・エクステンジ・プログラム」

シリーズ「くまもと」48

1966年にシアトル・神戸YMCAのユース・エクステンジ・プログラムが始まりました。50年目となる今年の8月1日~11日に中高生14名と引率者2名がシアトルを訪問しました。

8月1日、シアトル空港に着くとメンバーの目に飛び込んできたのは、異文化の連続でした。期待と不安な気持ちを受け入れてくださったのがシアトルYMCAのスタッフでした。シアトルYMCAのスタッフやリーダーの明るく楽しい雰囲気にはメンバーもいつの間にか心を開き交流することができました。メンバーが滞在中に楽しんでいたのはキャンプとホームステイです。CAMP SEYMOURでは、クライミングウォールやジャイアントジエンガなどのアクティビティにチャレンジする場面がたくさんありました。その度、キャンプリージャーからは「Challenge by Choice」と言われ自らチャレンジすることを選択するよう促されました。今までできなかったことにチャレンジすることはとても勇気のいることです。だからこそ、挑戦する仲間を励まし、結果よりも挑戦したことを一緒に喜び合ったことでグループの仲が深まってきました。

ファミリーウエルネスセンター	☎078(241)7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078(241)7237
ランゲージセンター	☎078(241)7204
専門学校	☎078(241)7203
西宮YMCA	☎0798(35)5987
三田YMCA	☎079(559)0075
余島野外活動センター	☎0879(62)2241
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)	☎078(241)7216
国際奉仕センター	☎078(241)7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078(793)7401
西神戸YMCA	☎078(793)7402



Information

YMCAおひさま	☎078(793)9077
西神南YMCA	☎078(993)1560
須磨YMCA	☎078(734)0183
YMCA保育園	☎078(794)3901
西宮YMCA保育園	☎0798(35)5992
西神戸YMCA保育園	☎078(792)1011
神戸学園都市YMCAこども園	☎078(791)2955
YMCAちとせ幼稚園	☎078(732)3542
ちとせ保育ルーム	☎078(732)3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078(997)7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798(26)1016

神戸YMCA サマーキャンプ!!

サマーキャンプが行われました。余島ではサントリーと共に「余島プロジェクト」を2007年より推進しています。子どもたちの夢や挑戦する気持ちを応援し、大きく育てていくために様々な分野の専門家をスペシャルゲストとして余島キャンプに招待し、子どもたちが“本物”に触れる機会を大切にしています。そのプログラムのひとつであるカヌートリップキャンプが2016年7月27日～31日まで行われ、カヌーで見事、小豆島半周50kmを達成しました！
2016年の余島キャンプについては、余島日記 <http://yoshima-blog.org/> をご覧ください。



ファミリーウエルネスセンターが2年目を迎えました。

神戸YMCAファミリーウエルネスセンターは中央区脇浜町で、歩みをはじめて間もなく2年が経ちます。メンバーや利用者みなさんにとって、YMCAでの活動が生活の一部になっているようです。毎日、顔を合わせてらっしゃる成人会員の方は『おはよう。今日も暑いな～』、アクアティックプログラムの子どもたちは『こんにちは。リーダーあんな…』という、挨拶から始まります。逆に、『今日は○○さん来てない』『リーダー、○○君は今日休みやで』などという会話もあります。ロビーでお弁当を広げて、数人で昼食を摂りながら会話に花が咲きます。アクアティックプログラムに参加している子どもたちの中には、プログラムがない日にYMCAにやってきて、『暇やから遊びに来た。友達と待ち合わせやねん。』ということもしばしば。特別な出来事ではないのかもしれませんが、地域の人々の中に少しずつYMCAが染み渡っている証だと感じています。日常の中で、YMCAに関わる人々の溢れるよさげをともにできる瞬間がいつもあります。3年目を迎えるファミリーウエルネスセンターの歩みも感謝の気持ちを持ち、強めていければと思います。ファミリーウエルネスセンターに与えられた聖書の言葉のように。



2014年度 神戸YMCA年間聖句 | いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。(テサロニケの信徒への手紙 - 5:16 ~18)

Handbell Concert in Seattle~

West Seattle & Fauntleroy YMCA~7月31日(日)
Fauntleroy United Church of Christにて

15名のリンガーと共に、バンクーバーでのハンドベル世界大会に参加しました。この機会にSeattleを訪れ、神戸・シアトル両YMCA交流50周年記念コンサートを開催しました。演奏後の皆さんとのお茶会、送り迎えや、ベル搬送、市内観光、素晴らしいランチと夕食会など、シアトルYMCAの皆さんで私たちの演奏に精一杯こたえてくださいました。ごく小さな訪問と交流でしたが、神様が両YMCAの交流の上に大きな意味を与えてくださるものと信じています。



(神戸YMCAベルクワイアー：阿部 望)

タイ・チェンマイYMCAから、インターンシップ生を受け入れました!

7月22日～8月18日、神戸YMCAのパートナーであるタイ・チェンマイYMCAから大学生リーダーのChuleeporn Chirophasakun(クン)さんとDaranuch Chaifang(ジン)さんが来日しました。クンさんはタイワークキャンプ31回生です。来神してキャンプ仲間との再会を果たし、実習地の余島キャンプ場では新しい人たちに出逢い、多くの気づきと経験を得ました。帰国後、この経験をチェンマイYMCAの活動に活かしたいと熱く語ってくれました。



台湾ICCPJ受け入れ 台中YMCAキャンプカウンセラー受け入れ

余島キャンプ場では、7月15日から1ヶ月、第10回ICCPJ(International Camp Counselor Program in Japan)を通じて4名の大学生を台湾・台中YMCAから受け入れました。日本語を学んでいるとはいえ、キャンプの中では戸惑うことが多くあったかと思いますが、献身的に奉仕してくださり、しっかりと役目を果たされていました。廖王惠さん、許明潔さん、游玫瑰さん、葉麒さん、どうもありがとうございました。



日本語夏期集中クラスが行われました!!

カレッジでは、7月11日(月)～8月5日(金)までの4週間、日本語夏期集中クラスが行われました。主に台湾・中国の学生で日本に興味をもち、日本語を学んでいる学生達が来日し、短い期間ですが日本を学びながら、さまざまな体験活動を行いました。なかでも、御影高等学校の学生達との交流会では、学校やクラブ活動に参加した後、ユースプラザEASTを会場に、小グループに分かれて互いの違いを理解しながら、交流を深めていきました。貴重な経験を提供いただいた御影高校の皆様へ感謝いたします。



オープンハイスクールを開催しました。

(神戸YMCA高等学院)

高等学院では、8月5日にオープンハイスクールを実施しました。これは、施設見学と体験授業を通して高等学院の学習スタイルを理解してもらい、YMCAで学ぶ気持ちを持ってもらうことが目的です。体験授業は、高等学院の特長である総合選択科目「失われた野生動物」に参加し、この日のテーマである「アメリカバイソン」について、映像を交えながら楽しく学びました。来校いただいた生徒・保護者の皆さま、ありがとうございました。

